

～自作桶胴太鼓にチャレンジ～

太鼓 作成 & 文章：馬場パパ（平成 14 年 6 月 9 日）



調べ緒をマニラ麻にしてみました

犬ガム太鼓製作から始まって、本物の太鼓を作りたいと思い、桶胴太鼓の試作に着手。試行錯誤の結果なんとか形になりましたので、製作の様子を発表します。少ない予算でもしっかり作業すれば結構作れますよ。 重要な注意 本格太鼓に取り組む前に犬ガム太鼓作りで皮（革）になじんでおきましょう

構想：練習やステージで使える桶胴太鼓の 1 尺 4 寸～6 寸くらいのもの

材料：極力自宅の近くの DIY ショップで入手出来る材料を使用する。（次に作るときに楽）

製作：電動工具等使わず通常の工具でがんばる（と言うか電動工具もってない）

費用：市販品の 1/3 以下の費用で作る（出来ればもっと安く）

直径 1 尺 6 寸位の太鼓を作りたいと思いいろいろ検討。革は浅草の専門店から送ってもらうしか方法が無いので検討外。胴の板材は DIY のお店でサイズを自由に選べますので問題無し。問題は革を縫い付ける金輪です。DIY のお店に 9mm 直径で 180cm ほど鉄の丸棒が 200 円くらいで売られているのは調査済ですから、これを曲げてロウ付けして使うか、金属パテで接続して使うか迷います。決めかねて物色していたら庭園コーナーに巨大丸型プランターを発見。約 44cm 直径の外形。これに革の厚み等を加えるとほぼ 1 尺 5 寸の外形になります。収縮チューブのようなものが鉄棒を覆っているため、金棒の直径は不明ですが、まあ 8mm はありそうですし、腕で押してみるとずいぶんしっかりしているので、今回はこれに決定。

設計図：一応図面は作ったけど汚いので掲載しません。言葉で簡単に説明します。

- （ 1 ） 1 尺 5 寸位の桶胴太鼓を作る（なにが何でも作る！）ちなみに 1 尺 5 寸は約 45 cm
- （ 2 ） 金輪は巨大丸型プランターの直径 44 cm のものに決定（その名も極太 50 号）
- （ 3 ） 1 尺 2 寸の桶胴太鼓から採寸したら、胴の直径と長さが 1.39 の比率なので参考にする
- （ 4 ） 胴の直径は、いきなりだけど 38 cm に決定。6 cm 幅の板 20 枚で 120 cm の周囲。円周率 3.14 で割ると直径が 38.22 cm になりカンナで削って 38 cm !! 金輪が 44 cm で胴が 38 cm。3 cm の

余裕。まあなんとかなるでしょう～

(5) 胴の長さは、上の数字から、直径×1.39倍なので、52.82cm、で53cmに決定

(6) 板の角度は、360度/板の枚数(20枚) = 18度。両側を9度ずつ削ればOK!

簡単でしょう～?

写真-1 : 14mm×60mm×530mm の杉板 20 枚



- DIY ショップで 14mm×60mm×1820mm の杉板を 53cm に切ってもらい、斜めのカットもお願いました。杉板は赤い方が芯に近く強いので赤味の板を選びました。すでになんわり曲がりの来ている板もあり、かなり乾燥しているらしいことが確認出来、ちょっと安心。でも曲がっていないのを買うんですよ!
- 懐が寂しいので片面 18 度カットにしました

! ヒント : 板の角度は使用する板の枚数で 360 度を割って出します。そしてその角度を半分にして、板の左右をカットします。20 枚なら $360 \text{ 度} / 20 = 18 \text{ 度}$ となり、左右をその半分の 9 度ずつ斜めにカットします。または一方のみ 18 度でカットし、もう一方はカットしない方法もあります。板の角度は太鼓のサイズに無関係です。尺 2 寸でも、尺 6 寸でも、使用する板の枚数が同じなら角度は同じです。20 枚使うと、カンナがけでほぼ円形になります。

写真-2 : 処理の終わった板を桶にしているところ



実はこの工程が結構大変。私は板を横に並べて、20 枚の板をテープで 3 箇所固定し、一枚ずつボンドを塗り、塗り終わったら胴を立てて、テープを引っ張って丸くし、写真にあるようなビニールの紐で仮止めし、板の位置をそろえました。急いで作業しないと途中でボンドが乾いてしまいます。

板の組み合わせをいろいろ検討し、ボンドで貼り合わせ、梱包用の紐でぎりぎりに締め上げているところ。接着後の強度はほぼこの工程で決まってしまうので、もっと良い方法があればと思うものの思案及ばず、ナイロン紐で腕がパカになるくらい締め上げました。

! ヒント : ボンドが全面に塗られていないと、強度が出ませんので、ローラー等を使って、しっかりボンドを塗りつけます。(片面だけです) また板と板の間に隙間があると十分な強度が出ませんので、少々板が曲がっていても、この圧着工程で、むりやり密着させます。腕が馬鹿になるくらい頑張りましょう。あと、接着すると余ったボンドがはみ出てきます。外側にはみ出てきたボンドは濡れ雑巾が何かでふき取っておきましょう。

写真-3 : ベランダはかんなくずの山



一昼夜してボンドが乾いたら、カンナで角を丸く削除。唄口もカンナとナイフで処理します。胴になるたけ丸みをもたせる為に、せっせとカンナをかけて、紙やすりで全体を滑らかに仕上げ、その後ウレタン塗装を3回重ねました。ベランダは鉋屑の山。使ったのは油性ウレタンのゴールデンオーク。油性は乾燥に時間がかかるから水性ウレタンにすれば良かったと反省することしきり

！ヒント 塗料は油性ウレタン塗料を使用しました。ウレタンは衝撃に強いので宮太鼓などで胴打ちする場合などに使用します。光沢もありますので仕上がりが綺麗。水性ニスでも、カシューでも大丈夫でしょう。二度塗り、三度塗りする場合は完全に乾いてから塗りましょう。急ぐと先の塗装が溶けてきて汚い仕上がりになります。あせる気持ちは分かるけど、十分乾燥させましょう。

写真-4 : 一応仕上がった桶胴

(内側にいろいろ書いておきました。)



左・杉 右・米モミ

奥に立てかけてある筒は届いたばかりの生革です

今回作った桶2個

左：杉板使用の桶（今回紹介のもの）

右：米モミ材を購入し、自分でカンナを使って斜めカットしたもの。板の種類が違うため、同じウレタンの3回塗装でも色が少し違います。(モミは杉より1割方重い感じです) 米モミの方がカンナがけは楽ですしナイフも使いやすいです。この二つの桶作成がほぼ同時進行しました。(注意しながら作業すれば、カンナでも18度の角度でカット可能です。DIYのお店によっては斜めカットしてくれませんので、自分でカンナがけするつもりでいたほうが良いかも知れません) 胴の周りには、紅茶で染めたクレモナロープ(4mm)を3箇所につく巻きつけて補強。最後にボンドで固定します。

！ヒント：担ぎ桶胴には・杉・桐・さわら等の板が使用されるようです。DIYで購入しやすいのは杉板でしょう。横幅45mm、60mm、75mmなどが市販されています。これらの横幅から太鼓の大きさに見合った板の枚数を決めましょう。設計図は、DIYのお店で手に入るものをメモしてから書いたほうが良いです

写真-5 : 宅急便で革到着！



浅草の革屋さんから届いた0.7mm~1mm、1mm~1.2mmの革、各1枚

初めての経験なので、桶胴に使用する革の厚さが分からず、お店で扱っている3種類の厚さから、薄いほうの2種類を選び注文しました。これで試作し今後の革厚の参考にするつもりです。宅急便で届いた革を見てびっくり。思ったより大きい、ごつい！

！ヒント：革が厚すぎる場合は、革を乾燥させてから、カンナで削るか紙やすりで薄くします。（と聞きました）乾燥している革は色があまりきれいでは無いですね。でも不思議なことに水に戻して引っ張ると白色に変わります。

写真-6：革を広げてみると（50cm 直径の革）



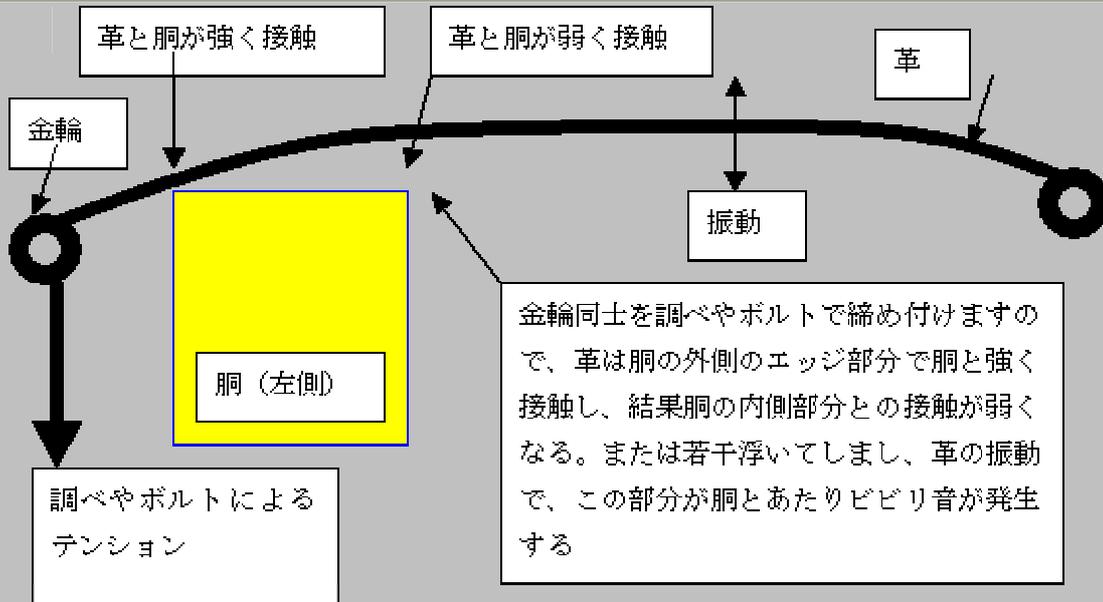
- 広げるとこれ位の大きさ。50cm 直径の革を購入しました。カリカリに乾いた革を折らないようにそっと広げてみました。50cm 直径とは言え、実際には 60cm 位の丸い革がとれるほどの大きさがあります。これを水で戻し柔らかくして作業します。

（50cmの革を発注したのでてっきり 50cmの丸い革が届くのかと思ってましたが、こんなでした。ビックリ）

！ヒント・これらの革は業者の方で処理済みですので、自分でなめす必要がありません。また業者の方で革を引っ張って乾燥させますので、水に戻した時にどの程度伸びるか不明ですが、犬ガムですと方向と革にもよりますが5%～10%くらいは伸びてくれます。つまり水に戻して柔らかくなった革を伸ばして太鼓に貼ると、乾燥の過程で元の大きさに縮もうとしますので、結果、革がパンパンに張られた状態になります。革で白い部分と、色の濃い部分がありますね。白っぽい部分は、乾燥時にテンションをかけたために、既に革がかなり伸びています。色の濃い周辺部分はまだ伸びていません。

下に唄口の処理について図示しておきます。

まあ素人の知恵ですからそのつもりで！ でもビビリ音は止まったからきっとOKだね



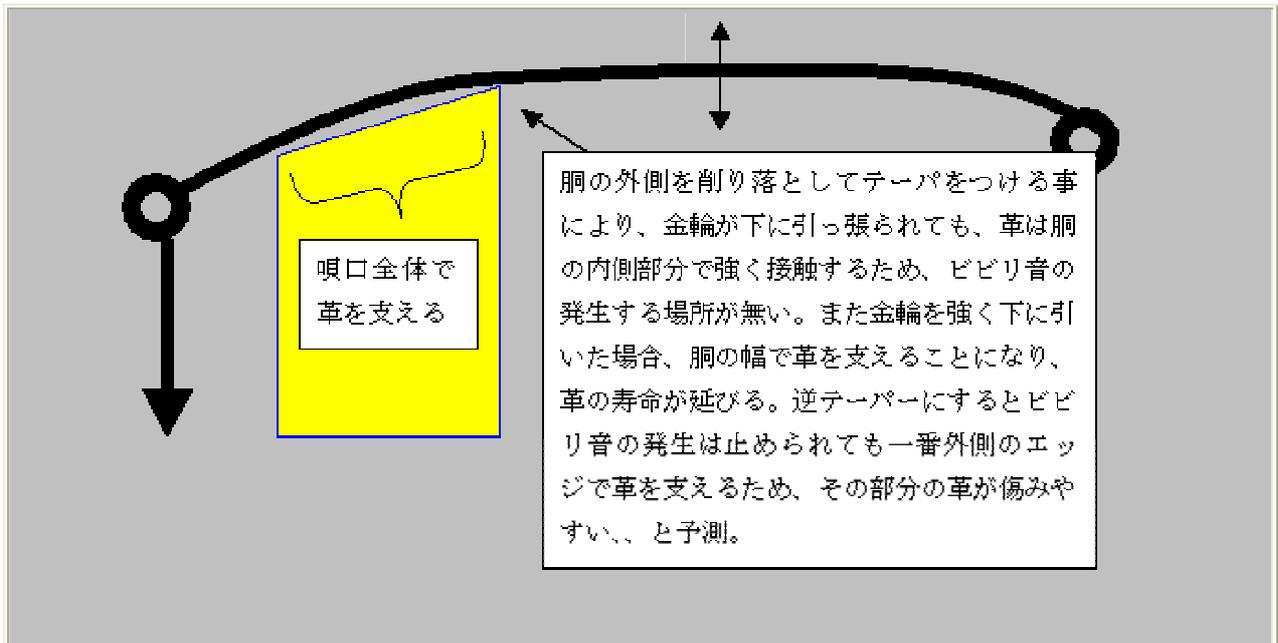


写真-7 : 革にテンションをかけているところ



作業中の乾燥防止の為湿ったタオルの上で作業しました。休む時はこのタオルにくるんでおきます。

- お風呂に水入れて一晩戻し、金輪より大分大きめに切ってから、縫い付けます。
 - 写真は縫い付ける前にたこ糸でテンションをかけているところです。(写真では糸が見え難いです)太目のたこ糸で均等にテンションがかかるよう、糸が切れる寸前まで力をかけて引っ張りました。この時あまり革を小さく切ると金輪に対して均等にテンションをかけることが難しいです。少し大きめに切り取りましょう。
- 犬ガムと違って革の面がきれいです。ちょっと感動、そして期待が大きくなって、、、

！ヒント：革の繊維をいためない為に、お風呂の残り湯で戻さないこと。新たに入れた水道水に一晩つけておきます。私はたこ糸を使ってテンションをかけましたが、力を入れるため指が切れることがありますので手袋をしましょう。私の手はバリバリになってしまいました。指の付け根も痛い！！

写真-8 : 手縫い中(手縫い用麻糸の"太")



手縫いの始まりです。直接縫い針で縫うのは厳しいので、皮革手縫い用具を使いました。これだと、上・下糸を使います。ワックスをかけた麻糸を針に通して、上からプスッと挿し、手で下糸を通し、針を抜き、これを繰り返します。金輪の所々に見える糸は、後でロープを通す為に予め千枚通しで小さな穴を開け、印に糸で縛りました。革がある程度乾燥したところでポンチで穴を開けます。写真は薄い革です。厚い革は糸を2本使ったのでこの道具で穴だけ開け、縫い針を使って手縫いしました。

縫い目の間隔、ふちからの距離等がばらばらにならないように事前に千枚通しでマーキングしておきました。ロープを通す部分を避けて縫ってゆきます。この道具だけではあまりきつく縫えないので、ある程度縫ったら、上下の糸を引っ張って上の革と下の革がしっかり密着するよう締め上げてゆきます。千枚通しの先を丸くしたようなものが具合よいです。そのままだと革を傷つけますよ。

！ヒント：皮の手袋をしていれば針で直接縫うことも可能です。ただ革が乾燥してくると縫いにくいので、縫い始めたらその日の内に縫い上げましょう。皮革クラフトコーナーに手縫い用の麻糸を置いていると思います。これを手縫い用ワックスにこすり付けて縫っていきます。もう少し太い麻糸が欲しかったけど、今回はこれで我慢。

写真-9：陰干し中



乾燥するにしたがって、だんだんいい音になってゆきます。木でフレームつくって団扇太鼓もいいな～なんて思いました。犬ガムと違って太鼓の革の色をしています。ちょっとうれしい瞬間です。

縫い終わった革 2 枚を室内で乾燥中

薄い革は乾燥が速いですが、厚いほうは、少し油が浮いてきてなかなか乾燥してくれません。時々紙で油をふき取りました。裏の余っている革をいつの時点でカットすればよいか迷うところです。完全に乾燥してからですと普通の鋏では歯が立ちません。革が湿っているうちに切断するとテンションがかからなくなり、表の革が縮んできてしまいます。どちらにしても裏の革で、太鼓の胴を支えることになりまので、胴がぴったり入るように切断します。実際には胴の外形より小さい円で切断し、5mm くらい革を立てて、胴がすっぽり入るにすると良いですね。～これが結構難しいんだな。

！ヒント：適当に乾燥してきたところで、調べを通す穴をあけます。8mm～10mm 位の穴をポンチを使って空けます。せっかく縫った糸をポンチで切らないように注意して作業しましょう。

写真-10：組上げました（杉の胴）



ついに完成。4mm のクレモナロープを調緒としましたが、ちょっと細いので後日変更する予定です。下緒は旅行カバン補強用のものを適当に切断し使用しました。片面（薄い革の方）は普通の桶胴っぽい音がしています。もう片方（厚い革）は流石に革がごついため、これはもう普通の太鼓の音です。（って言うか、音が硬い！ もっと叩き込んでゆけば良い音になるかも知れません）

！ヒント：胴を締め付ける為に、クレモナの4mmのロープで3箇所縛りました。胴の色に合わせるため、紅茶をお鍋に入れ煮立てた中にロープを10分くらい入れます。これを流水で洗い、また紅茶に入れ、を繰り返し都合3回染めました。ロープが乾燥したら胴の周りに3回巻きつけ、ぎりぎりに締め上げて縛りあげ、縛った部分をボンドで補強しました。最終的には、胴とロープの間にもボンドを入れて固定します。注意：「クレモナロープ」はクラレの商標で、ビニロンを主材料として編んだロープです。他社のビニロンロープとして販売されているものでもほとんど同じです。

費用：（消費税が別途必要になります。取り寄せの場合は宅配料金や代引き費用が別にかかります。値段は記憶で書いてますので参考です。実際に購入したお店の名前も書いておきました。）

- ・杉板 14mmx60mmx1820mm x7枚@700円x7枚=4,900円 東急ハンズ（藤沢市）
- ・板のカット 530mm にカット、1枚当たり3回カット。@50円x3x7枚=1,100円東急ハンズ
- ・斜めカット 左右を9度づつ @100円x2辺X20枚=4,000円 東急ハンズ
- ・金輪 43.5cm直径のプランター @800円x2個=1,600円 ビーバートザン（厚木店）
- ・革 50cm直径の革2枚 @5000円x2 =10,000円 フジトウ商事（東京・浅草）
- ・クレモナロープ 太さ4mmx20m（ビニロンでも同じ）1,200円工具店・フルカワ（寒川町）
- ・ロックペイント・ウレタン塗料一缶 1,000円 工具店・フルカワ
- ・麻の手縫い糸（太） @300円x2=600円 東急ハンズ（手芸店でも売ってます）
- ・手縫い用ワックス 300円 東急ハンズ（ローソクでもOKでしょう）
- ・たこ糸細いもの、中くらい、太いもの 1,000円 工具店・フルカワ・東急ハンズほか
- ・木工用パテ 節の穴や、へこみ部分に使いました
- ・染料 シンプリコールのNO15（紫色）調べを紫に染めるのに使用 350円かな
費用 合計約30,000円ほど

（安い板材を購入し、自分でカットし、斜めカットも自分ですれば2万円以下でも可能です。）

使用した道具・工具：

- ・皮革用縫い器具 1500円 東急ハンズ（なくても頑張ればOKですがあればずっと楽）
- ・皮革手縫い針（4本セット） 500円 東急ハンズ
- ・木工用のこぎり：自分で板を切らない場合は不要。新たに購入するときは両刃の和鋸が便利
- ・金のこぎり：金輪をプランターから切り離すのに使う。
- ・カンナ：板の斜めカットと桶に丸みをつけるのに使う。買う場合カンナは大き目を選びましょう
- ・切り出しナイフ：唄口の仕上げにつかう。大型のカッターナイフでもOK
- ・木槌：かんなの刃の調整用。板の位置調整ほか
- ・ひし切：千枚通しに似ているけど、軸が丸くなくひし形になっていて、革に穴が開けやすいです
- ・作業台：台がスライド式になっていて、板を万力のように挟むことが出来るもの
- ・木工用ボンド（大） x1本：即乾性のものは使いにくいので、普通のボンドを
- ・塗装用刷毛とボンド塗布用ローラー
- ・紙やすり・千枚通し、はさみ、新聞紙、雑巾、割り箸、爪楊枝、荷造りひも、、、なんでもです

作った太鼓は5個

ピンクのは知り合いの女性太鼓打ちに依頼されて作りました。桐ですからとても軽いです。腰巻がしてあるのも桐材で作りました。どちらも担ぎ専用です。他は杉材とモミです。平置き用です。

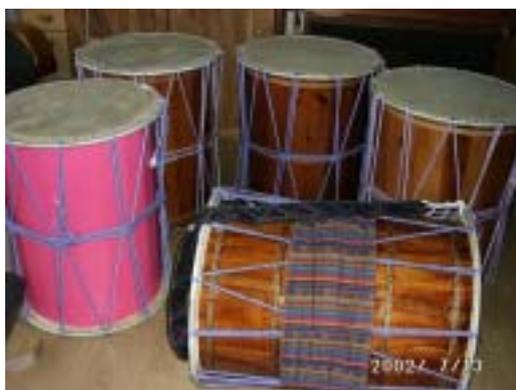
米モミで作った太鼓 6.4 Kgほど (平置き用)

杉で作った太鼓 5.5 Kgほど (平置き用)

桐で作った太鼓 3.8 Kgほどでした (担ぎ用)

一番最初の写真の太鼓は、マニラ麻の調緒になっていますが、下の写真のクレモナ・紫ロープを取り替えたものです。調緒の違いでずいぶん雰囲気が変わりますね。

ご質問等は：babat@reset.jp へメールをお願いします。馬場パパでした。



All rights reserved (C) 2002 T.Baba